



TITLE:

1939年1月の天象

AUTHOR(S):

木邊

---

CITATION:

木邊. 1939年1月の天象. 天界 1938, 19(212): 112-110

ISSUE DATE:

1938-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167750>

RIGHT:

新 春 “新年裡來是新春、家々戸々點紅灯。”

何時もなれば、こんな感じのする御正月も、  
今は聖戦下、居並ぶ諸星も、尊い英靈に捧  
げる“天が火”と輝いて居るのだらう。

1939 年

## 1 月 の 天 象

北 天 先づ<sup>こゝろ</sup>永久の火か、恒星連の御挨拶を

北の方から始めると、北極星は、依然北極を略示して居る事に變りはなく、この星が變光星である事も今では周知の事柄である。新年の御披露に、紋切型の口上を言はせると、“私は永年北極星を 勤めさせていたゞいて居りますが、實は持病が一寸ばかり御座いまして、3.968577 日を周期に、0.17 (寫眞) 等級だけ<sup>星</sup>星壓が高くなつたり低くなつたりして、ついそれが顔にも顯れるので御座います。私の病名は双子く型と申しまして、一種のセフェ δ 種なもので御座いますが、増光、減光殆んど同型のもので御座います。但し極く輕症で御座いますから、精密な規準光度の御役には少々たち兼ねますが、北極星としての御役目には決して御迷惑を皆様にお掛けする事は御座いませんから、何卒舊俗の御最負を”と先づ第一に口を切る。

次いで北斗の指針がそろそろ頭を擡げて來た。

西 天 白鳥が西山に直立して居る。中天にある頃には風翼を擴げた白鳥が適はしいが、直立する今は、所謂十字架座の南十字に對比さるべき型に適應して居やう。すべてものは見る者の感じである。言葉なり文字は畢竟人間的な *λογος* を措いて外はない。たゞ社會的な制約と云ふ上で得手勝手は許されないが、そう云へば、先號に記した“アンドロメダ”と“ペガス”の合作する七星も、僕一人見て居る時は“大斗”又は“天斗”として映じて居る。今、中天から西空へ悠然と懸つて居る。鯨が西南に淋しく、ミラ星も見へない。

南 天 日没時には淋しい。依體の知れない“エリダン河”は、さつぱり要領を得ない。然し少し夜更になれば、オリオンのあたりが南に廻つて來る。可愛い兎や鳩もやつて來る。

中 天 ベルセ、カシオペヤ、駁者、牡牛、三角、こんな所であらう。いづれも相當著名だ。

東 天 双子、小犬、大犬、いづれも輝々たるものである。寒霜と、本當に良

く感覺的に我々は結び付けられ過ぎて居る。かにや獅子も、追々と時間の流れに従つて昇つて來やう。全く冬の盛り、星座の花盛りの1月である。

**太 陽** 月始めには射手座、下旬には山羊座に移る。簡単に表記すれば

日付	赤經	赤緯	昼間	夜間	夕刻の薄明終焉
1	時 分 秒 18 42 6	-23° 6'	時間 分 9 51	時間 分 14 9	時 18 26
6	19 4 7	-22 38	9 53	14 7	18 29
11	19 25 58	-21 59	9 58	14 2	18 34
16	19 47 35	-21 9	10 3	13 57	18 37
21	20 8 56	-20 9	10 10	13 50	18 41
26	20 29 58	-18 59	10 18	13 42	18 47
31	20 50 40	-17 41	10 27	13 33	18 51

追々と緯度は昇つて來るが依然嚴寒である。感じとしては正に真冬である。

**月** 月齡 10.2 の月が魚座の東端から始まる。諸相を略示すれば(月齡は日本中央標準時 21<sup>h</sup> の値)

日付	月齡	視直徑	星座	時刻	記事
5	14.2	33' 16"	オリオン	21 <sup>h</sup>	満 月
6	15.2	33 26	双 子	11	最 近
12	21.2	31 31	乙 女	13	下 弦
20	29.2	29 24	射 手	13	新 月
20	29.2	29 24	"	23	最 遠
28	7.4	31 1	魚	15	上 弦

別に大して出色した事も無いが、満月と最近とが大體重なるから、最も明るく大きい満月になるわけである。其の上中天高く通過するから、逆の場合よりは數割も明るい事になる。闇夜の無いのは5日と6日、反對に全く月の無いのは19日から21日迄、然し西天に氣付くのは23日の月齡 2.4 からかだらう。

**水 星** 3日曉天で 23° の最大離角に達する。此の頃一寸見易い。但し朝起きる必要がある。

**金 星** 益々早く昇る様になつて、30日遂に西方最大離角 47° に達する。3時間半太陽よりも早く昇る。光の強い星だから、日出の頃、シーイングの良い時を見計らつて觀望すれば、美しい半月が見える。但し光度は -4.4 ~ -4.1, 視直徑は 37."2 ~ 24."8 へと減少する。日中に肉眼或は望遠鏡等で見えるのにも又好期である。

火星 曉天に可なり高い。光度は  $+1.7 \sim +1.4$ ，視直径は  $4.''8 \sim 5.''6$  と次第に増加中であるが，未だ観望には不充分である。

木 星 月始めには4時間、月末には2時間餘りしか西天に残らなくなる。もう觀望は大分無理になつて來た。然し衛星を見るのには小望遠鏡でも充分である。先號の第10、第11兩衛星の記事は、見る事は全く不可能にしても、是非一讀すると興味が倍加する。

土 星 この星も西への傾きが強くなつて來た。然し木星よりは未だ位置がよい。リングの觀望は充分出来る。光度は+0.9等、視直徑は木休 $17''.5$ 、リングが $40''$ 内外ある。傾きは $8^\circ$ 。

**天王星** 見頃である。光度や視直径は何時も乍らの6.0等級と3.16ではあるが……、少し目的が小さいが、四個の衛星は、軌道傾斜が大きいから、天王星中心に殆んど圓形を描いて廻つて居る運行を示す。

海王星 停留を昨年末に終つて、逆行に移つた。然し光度は 7.7 等級、視直径は 2.43.

**冥王星** 年が變つても、“かに”座に居る。

**小遊星** 著名な四個は全部好位置では無い。

**流星** 年頭暁天のカドラント座流星群其の他.

黄道光 夕暮れの西天に立派なものが見える。

ユリウス日 1939年1月1日 21時に 2429265.0となる. (木邊)

本年度の日月食を年始に當つて極く概略紹介すれば

**金環日食 4月20日** 中心線はアリゾナからアラスカとカナダの國境を経て北極を通る。陸地では北米、及ヨーロッパの西北部で部分食が見へるが、日本からは全く見へない。

皆既日食 10月13日 南極地方に中心線がある。陸地ではオーストラリア東部  
ニュージーランド、南米の南端から一寸部分食が見られるにすぎない。勿論日  
本からでは駄目である。

管絃月會 5月3日 眞夜に日本では好都合に見られる。